

明るく元気の出る町

平成10年12月1日発行・毎月1日 編集・発行／秋田県東由利町役場企画課

ひがしゆり

HIGASHIYURI

東由利町

1998 12

NO.525

雪ニモマケズ
寒サニモマケズ

～みどり保育園



町イメージ
キャラクター
「モウ太くん」



ライバル意識を持ち米づくりを

東由利町農業者大会

十一月八日、「元気と忍耐で明日の明るい農業を」と題して平成十年度町農業者大会が有鄰館で行われ、農業生産者など関係者百余名が出席、基調講演、基調報告、パネルディスカッションなどを通じて東由利の農業が今後どうあるべきか考え、真剣に話し合いました。



▲東由利町農業の未来は・・・

大会ではまず埼玉県西武米穀株式会社の岡野氏が「消費地における売れる米」と題し、基調講演を行いました。

首都圏での米消費と消費者意識、業者からみた秋田、東由利の米に対する評価、売れる米の条件などに触れた後、「一人一人がライバル意識を持つて一粒一粒大切に米を作ることが、秋田の、ひいては東由利の米評価につながる」、「高い評価に奢ることなく米づくりを」、「東由利の自然こそが米を売る場合、売りになる」などと述べ、最後に「自分の娘を育て、嫁がせるような気持ちで愛情を持って米づくりをしてほしい。それが東由利



基調講演講師岡野安雅氏
西武米穀（株）仕入部部長

米づくりの将来につながっていく」と講演をまとめました。

時に辛辣で厳しい話に、出席した農業者たちはおいしい

米づくりに大切なことは何か真剣に考えていました。

その後、東由利町良質米生産技術講師の田口松雄氏による「今年の作柄に影響した要因と課題」と題した基調報告がありました。

昼食では、あきたこまち、コシヒカリ、ひとめぼれの三種類のおにぎりを食べ、米の食味を比較しました。日頃何気なく食べている米の微妙な味の違いに驚いていました。

午後からのパネルディスカッションでは、県立農業短期

的な生の話しに会場の参加者は聞き入っていました。

（以下内容一部抜粋して紹介）

昭和60年西武米穀㈱に入社し、3年間の営業を経て昭和63年に同社仕入部へ転職し、仕入部部長として現在に至る。「欲ふかき人の心と降る雪は積もるにつけて道は忘る」の言葉を心がけている。

近隣町の六人のパネリストが「みんなの力で明るい農業を」と、農業に対するそれぞれの立場での率直な思いを発表しました。各自の悩み、今後の抱負など現実的的な生の話しに会場の参加者は聞き入っていました。



大学農学科北原講師をコーディネーター、本町の認定農業者協議会長の畠山吉基氏を助言者に、本町、

リストが「みんなの力で明るい農業を」と、農業に対するそれぞれの立場での率直な思いを発表しました。各自の悩み、今後の抱負など現実的的な生の話しに会場の参加者は聞き入っていました。

明日の明るい農業を探る

パネルディスカッション

みんなの力で明るい農業を



▲農業に対する思いを語りあったパネルディスカッション

北原克宣氏（以下北原と略）

「実際に経営上でどういう問題に直面しているのか発言願います。個人でも、地域でも結構です」

相庭幸子氏（以下相庭と略）

「私個人として、認定農業者がどう地域の農業を守っていくべきなのかという悩みをかかえています。

また、稻作と畜産の経営割合についてです。稻作は収量に応じて金額が決まってきますけれど、畜産はいくらでも収入を増やせる可能性があるので今後経営割合を考えなくてはいけません。

畜産については後継者問題なども考えていくたいと思つています」

後継者と転作問題が悩み

斎藤とし子氏（以下斎藤と略）

「仁賀保町にはTDKという大きな会社がありまして、農業が伸びにくい環境にあります。そういう中で、専業農家は減少、転作という大きな問題があり、三割転作といわれる中、何をやつたら良いのかが悩みます。

反、転作という大きな問題があり、三割転作といわれる中、何をやつたら良いのかが悩みます。

です。

グリーンレディースとして

は直売時の労働力配分が問題になっています」

佐藤孝一氏（以下佐藤と略）

「これから課題といえば、後継者問題でしょうか。

地域的な問題として田畠に出る人の高齢化が進んでいることです。若い人がやりたがらないので田畠の荒廃が進んでいます」

佐々木源治氏（以下佐々木と略）

「地域的な問題として三割の転作は非常に重く我々の肩にかかってきます。来年も転作があるということです、もっと農協、行政で力を

思います。

また米について言えば、一

田口松雄氏報告

農業者大会では、基調講演、パネルディスカッションの他、「今年の作柄に影響した要因と課題と異常気象を想定した基本的対応技術」と題し、町良質米生産技術講師の田口松雄氏による基調報告も併せて行われました。

今年の作況状況について、「日照不足の影響により穂数、粒数がやや少なかつたものの、登熟は順調に経過した」とし、十月十五日現在の作柄は、九六のやや不良であったと総括。

その後、①育苗期間②移植から初期生育期間③初期生育から生育中期④幼穗形成期から出穗期⑤登熟期とそれぞれの生育経過にふれ、気象変動が激しく、栽培管理に苦労した一年であり、収量と品質が平均して期待以下だったと生育経過報告。

また収量と品質が低下した原因として平成八年、十年の平均気温、日較差、日照時間の積算値を比較分析、来年の課題克服として「異常気象は予測不可能であるがそれに対応する心構えは可能。よい苗をつくることが大切」と提案し、報告をまとめました。

兼業・専業農家が集まる場ができれば

「認定農業者の視点で町を見た

畠山吉基氏（以下畠山と略）

理場などの増設を考える時期にあります」

雇用という問題があります。

またフランス鴨も施設、処理場などの増設を考える時期にあります」

北原「次に、今厳しい状況にあります。今後の経営、取り組みの中で夢なりヴィジョンなりがあると思うのですがお話しいただければ」

佐々木「五十を前にして夢を

ゲリーンレディースについても最近感じています。次の目標は特産物を見つけることではないかと思います」



パネリスト
斎藤とし子氏
(仁賀保町)



▲参加者はパネルディスカッションを真剣に聞き入った

等米という評価であれば、価格は同じであるという実情があります。我々の努力といふのは消費者には見えないわけで、こだわりをもつた米づくりが高価格につながるような方法を考えていかなければならぬと思います」

金子拓雄氏（以下金子と略）「個人的には稻作では十町歩の作付面積は達成しましたが、この後の目標をど

こにおいたらいのかという悩みがあります。十五町歩にしようとなれば過剰投資につながる、法人化にすれば年間雇用という問題があります。

北原「次に、今厳しい状況にあります。今後の経営、取り組みの中で夢なりヴィジョンなりがあると思うのですがお話しいただければ」



パネリスト
佐々木源治氏
(大内町)

業は仕事が途切れない職業であり、動けば動くほど考へる体にもいい、自分に納得できるものができるのが魅力ではないかと思います。

稻作部会、畜産部会、認定部会もそうですが、誤った見方をせず、自分なりに情報を集め、人に頼らず自分で整理し、分からなくなったら人に聞きながらチームワークを作っていくという形にしていけば、もつと広い輪ができるのではないか、兼業、專業農家両方が集まることができるのではないかと思います。

町行政について言えば、他町に比べて進んでいるのではないかと思います。理由は直接文句をいう人が多いということがあるのではないかと感じています。そういう意味で進んでいるということです」



助言者
畠山吉基氏
(東由利町認定農業者協議会会長)

ことは特にないのですが、農業は仕事が途切れない職業であります。また近隣、近町に仲間であります。イバルがたくさんいる、そんな環境の中で米を作りながら、十三年に繁殖牛を七頭に増頭。平成十年までに水稻牛を増やし、農業経営七ヘクタールの規模拡大を達成。昭和五十五年に七年間の出稼ぎ後就農し、昭和六年をがんばってみよ」と平成七年に認定農業者となり、同年発足した東由利町認定農業者協議会会長に就任。先輩、同世代の農業者が努力している姿に感銘。農業者が自立し誇れる町になれたらと思う。



仲間と励ましあい生活ができる農業が夢

語れるかどうか（笑）。まず農業に関していえばこれといつて本当に満足して農作物を育てたことがないなというのが本音です。あと十数年は農業ができると思いますので少しでも満足を得られるような農作物を作りたいと思います」

「私はアムスメロン日本一という自負をもっています。様々な改良材を使い、収量ではなくて糖度などの質で勝負していますが、米でもそれをやりたいと思っています。

消費者が求めているのは安くおいしいものだということですが、我々も生活がかかっています。我々が作つた特別米に投資という考えではあ

りませんが、例えば八俵とつても十俵分で購入するようつきかけをつくつていただければと思っています。農協ルートでメロン販売をしてみたいという消費者も実際にいるんです。

あとは仲間と一緒にお互いに励ましあいながら生活できる農業をやつてみたいと思います」

岡野安雅氏（以下岡野と略）

「消費者に買ってもらえるものは安くおいしいお米です。我々も商売ですから物が売れなければ給料がもらえないんです。食味によつて価格をつけたいという話もあります。が、今のシステムではそれだけではできないんですね。

しかし、我々卸しが東由利でしか作れない米を作つてくれというのはいい話だと思いました」

「めできたわけですが、会場の方から何かありましたら」

東由利町農業委員

■アムスメロンの味では日本一だと自信しているが、米でも食味向上の技術を確立したい。フランス鴨を素材にして洋食パーティーを開いてみたい。

■女性農業士会幹事、秋田県地域興しマイスター（営農マイスター）など夫婦が共に地域社会に参加する場を積極的に作り、リズムのある明るい農業をめざす。

（東由利町）



コーディネーター
北原 克宣氏

（県立農業短期大学農学科講師）

北原「これまでどんなことに悩んでいるのか、これからどんな夢なりビジョンをもつているのかを中心に話を進みました」

もう一人は三十四歳の野菜クラブという会社方式の農業をしている方です。主にスーパーや外食産業を手がけていますが、注文先によつてニーズが違うので（スーパーは野菜の形重視、外食産業は歩止まり重視）条件に合わせたものをグループ内で分担して生産しているんです。

■パネリスト 相庭幸子氏
(矢島町)

パネリスト
佐藤孝一氏

（羽後町）



■養豚（母豚三百頭一貫経営）(有)雄勝牧場代表取締役、ニューファームサービス株式会社取締役、秋田県養豚協会副会長

■自信と誇りを持った養豚業にこだわっている。

パネリスト
金子拓雄氏

（東由利町）

■稲作十酪農の充実した複合経営確立。



▲会場からも意見が出された

若い人が農業に目を向けているというのは、今までの形ではない、新しい形の農業に注目しているということなんですね。

なかなか答えは出ませんが、若い人たちが農業に魅力を持つてくれるにはどうしたらよいのでしょうか』

相庭「今の若い人は給料がもらえないことだらうと思います。実際東由利でそういう経営をしている人は少ないだろ

う」ということだらうと思いま

す。それが後継者を育てるに

つながると思います」

金子「農業後継者は給料が払える経営をしなければ育たない」ということだらうと思いま

す。実際東由利でそういう経営をしている人は少ないだろ

う」と思います。

相庭「酪農ですから、三六五日毎日必ず六時間は牛舎の中で、お互いが社会的な活動に旺盛に参加しています。樂しみがない、ゆとりがないといふことが農業をしている中で悲しいことではないかと思

います。お互いが時間のやりくりをしながら農業、社会参加、趣味に頑張っています」

斎藤「女性が家の中で生き生きとして意識しているのかというところに問題があるので私は思います。子供たちが肌で体験したこと、後継者として農業を、という心構えに少しでもつながるのではないかと

うか。

あとは、休みや労働力に対する対価などの環境整備が必要ではないかと思います」

佐藤「人は仕事が忙しく、給料が良い会社に集まります。こういう不況下ですから、名の売れた会社だと人は来ると思いますが、一番は何といつてもちゃんと給料が払えるか

あれば、自分の後継者でなくとも外から人がやってきます。仕事がなくて金払いが悪い所には人は集まりません」

が協力的になつたという面もあります」

一つだけ議論できなかつたのは、良い品質の米を出す場合、単発的ではなく、まとまつた数を出すということを考えた場合、個別の経営と同時に地域とどう調整していくのかということですが、これは残された課題ということです。皆さんの中で議論を発展させていただければと思います」

斎藤「グリーンレディースでの直売についてですが、消費の農業も変わってくるのかな」ということで、お父さんたち

環境整備と女性の役割が町農業の鍵に

斎藤「女性が家の中で生き生きとしている姿を見せることが大切ではないかと思います。家庭の中でお母さんが辛い顔ばかりしていると農業は辛いものだと子供たちの意識に残ってしまうのではないかと思うのです。

後継者が家に入る場合にはそれなりの環境整備が必要ではないかと思います」

北原「給料が払えるということで表現されていましたが、これから農業を考えると、環境整備が後継者問題を考える時に必要であるということだと思います。

もう一つは女性の役割ですが、奥さんも経営のパートナーであるということ。きちんとした分業体制が必要になつてきているので思っています。こ

二・農業者大会について

▼流通関係者と意見交換の場がほしい▼農業全体の総体的な内容は意義あるが、作物別の分散的な集まりも試みては▼JA各部会、認定農業者協議会、婦人部、農地流動化推進委員などを一緒に介し集いの活発化を

ういう場に女性が気軽に参加できるようになれば、東由利の農業も変わってくるのかなと思います。

永年の農委の功績に対し表彰



十一月四日開催された第四十

二回秋田県農業委員大会において、農業委員として永年にわたり功績があつたとして、鈴木和夫氏（沼）、小野作美氏（下通）が表彰をうけました。

鈴木氏は昭和五十八年農業委員会委員に就任後、平成十年まで同委員、また平成三年から十年まで同会長を努められました。小野氏は昭和六十一年農業委員会委員に就任後、平成十年まで同委員を努められました。永い間ご苦労さまでした。

町長日記

農業者大会で

十一月八日に開催された農業者大会はなかなか迫力のあるいい大会となりました。

まず、基調講演をお願いした西武米穀の岡野部長さんの買う側の論理の話は、売る論理の側の私たちには大変なショックがありました。

今、どんな米が売れているのか、米の消費者はどんなことを米に期待して買うのかなど、買う側の論理を話しても

らいました。

残念ながら米余りと言われる中で、新食糧法ができ、市場経済が米にも導入されて、どんな米がよく売れていくのか、米を買う側の卸屋さんの話は大変な驚きであります。

「皆さん是自分の米しか食べる事がないでしよう、自分分の米が日本一うまい、だから高く売りたいと思っていることでしょうが、商品としての米はおいしく、安いのがあたりまえの世界です」との話は、強烈なインパクトがあり、

これからも「あきたこまちの里」を標榜していく私たちにとって大いに参考にしていかなければならぬ話でありました。

この標語は町小・中学校長、町緑化推進委員などによる標語選考委員で決定したもの。

わられる第五十回秋田県植樹祭のテーマになる標語を募集していましたが、このほど応募総数三百三十七点の中から、東中三年小松田友樹君の作品「育てよう地球の命と未来の夢を」が最優秀賞に決定しました。

渡辺伶奈、伊東健司、長沼敬晴、佐藤秀孝、長谷山真央、小野望、佐藤真理子、遠藤洋、高橋有、遠藤瞬、遠藤学、小松信吾、小松真弓、長谷山長一、阿部栄子

秋田県植樹祭の最優秀標語は
「育てよう 地球の命と 未来の夢を」

入賞者は、植樹祭式典で表

彰、また最優秀標語は同テーマとして今後活用されます。

なお優秀賞授賞者は次のとおり。
〔敬称略〕

氏は昭和四十三年、三十三

歳の若さで東由利村議会議員に当選、同六十三年まで連續

五期二十年間、東由利村（町）

政発展に貢献されました。ま

た同六十三年に町自治功労章

を授与されました。故人のご

冥福をお祈りいたします。

東由利町自治功労者で元東由利村（町）議会議員の遠藤正男氏が十一月八日ご逝去されました。六十三歳。

遠藤正男氏ご逝去

東由利町自治功労者で元東由利村（町）議会議員

正男氏が十一月八日ご逝去されました。六十三歳。

なかなか元気の出ない農業の状況が続きますが、パネリストの皆さんには大変な元気をもらいました。

昼には「あきたこまち」「コシヒカリ」「ひとめぼれ」のおにぎりの食味比べをしてもらいました。フランス鴨のお汁もいつもながらおいしいものでした。

お二人の女性農家、矢島の相庭さんには五十頭のジャージーの飼育をしながらの子育てを語つてもらい、また町出身であります仁賀保の斎藤さんは、グループを作つての野菜販売所のことを語つても礼申し上げます。

二八・九%の減反に耐え、春からの異常気象に懸命に對応した稻作農家に心から

7 広報ひがしゆり 10.12.1

長寿化時代 本当の福祉とは何か

本荘由利地区痴呆・ねたきり予防地区集会
& 福祉と健康のつどい



痴呆・ねたきりにならない、させないために

十一月十三日、「痴呆・ねたきりにならない、させないために」をテーマに、「平成十年度福祉と健康のつどい」と「本荘由利地区痴呆・ねたきり予防地区集会」が有鄰館で合同で行われ、町民の皆さん二百余名が参加しました。

当日は真田征子由利福祉事務所長が由利地区の四人に一人は六十五歳以上であるという現状にふれながら「老後を有意義に過ごすために今日の集会で学びたい」と挨拶。その後、阿部幸悦町長がドイツでの福祉研修体験から学んだ

改革でいくらでも変えていくことができる、また、老い、死は避けられない事であるが、それならば満足感を持つた生き方をするべきではないだろうなど、健やかに生きるた



▲「健やかに老いるとは」と題し、特別養護老人ホーム萬生苑施設長藤井蘭子氏による講演が行われた。

めの知恵を中心とした内容の講演でした。

その後意見発表が町内の三氏によって行われ、柴田浩氏は介護に対する家族の協力と理解について、畠山キク子氏は自分の体験を元にした介護について、高橋育子氏は仕事を通じて感じた介護サービスについてそれぞれ発表しました。立場の違いこそあれ、介護と身近に接している三氏の意見に参加者は真剣に聞き入っていました。



▲痴呆・ねたきり予防宣言が行われた

最後に町愛育会副会長の畠山清子氏により痴呆・ねたきり予防宣言が行われました。集会を通じ、参加者たちは身近な問題の痴呆、老いについて真剣に考えていました。



柴田浩氏（須郷田）

家族ぐるみで行っている介護体験を発表しました。

大切なのは家族の協力と理解

意見発表から

(一部抜粋紹介)

十六歳の妻が突然発病し、わが家はパニックにおそれました。本荘の病院で手当を受け二日後、秋田の大大学病院にいきました。診断の結果、脊髄の梗塞であり「下半身が動かない状態もありえる」と言われ四十日あまり、本荘の病院に

平成九年一月十二日朝、六十六歳の妻が突然発病し、わが家はパニックにおそれました。

子供中心の生活から転換を

そこで、家族、親族で相談し「子供中心の生活から母のことを考えた生活に変えなければ」と、息子の提案。そして「母が不自由な

戻り四ヶ月、その間、角館総合病院に良い治療方法があるといわれて一泊で移動入院などもさせてみましたが、下半身のマヒとシビレは良くなる様子がないでした。

もちろん私も賛成しました。さて、手をつけて見ると約百三十年も前に建てられた家であるためにぼろぼろでしたが、大工さんの工夫と、息子の苦心のおかげで寝室、居間、風呂場、トイレ等も車椅子で移動できるようになりました。

幸いトイレは昼夜とも一人で行けますし、お風呂も多少の手助けで一人でできます。

それでも本人はふざぎこむこともあります。世間話やテレビニュース、新聞記事などを共通話題にして話すように心がけています。

また、一、二ヵ月に一回の本荘への通院などを利用し、息子が付近の町村などに寄り道して景色を見せたりします。

嫁や孫たちも休日など散歩に連れて出て、近所の方々との会話の機会を作ってくれているようです。

そこで、家族、親族で相談し「子供中心の生活から母のことを考えた生活に変えなければ」と、息子の提案。そして「母が不自由な体ながらも、寝たきりや痴呆にならないで、長生きできるように家の改造をしよう」との言葉。

本人専用の浴槽にしたり、トイレの入り口の戸をスライド式の二枚戸にして広く開閉を出来るようにするなどの工夫をしました。

幸いトイレは昼夜とも一人で行けますし、お風呂も多少の手助けで一人でできます。本当にありがとうございます。福祉関係皆様方に感謝申し上げながら、今後も大いに利用させていただきたいくと思っておりま



▲畠山キク子氏（上通）町内で独り暮らしをしている父親の支援にまつわる体験を発表しました。



▲高橋育子氏（デイサービスセンター）民間病院とデイサービスセンターでの体験を発表しました。

年に一度 町文化の総決算

秋まつり

1998



▲ギンガマンショーは子どもたちに大人気

十月三十一日、十一月一日の両日、秋まつり'98が健康増進センターを主会場に行われ、約八千人の人で賑いました。

昨年まで行われていた産業文化祭から、名称を秋まつりに変更して初めてのまつり。

新たな視点から町の文化祭を考え、新しく作り上げようと、昨年までの内容を引き継ぎながら、様々な趣向を盛り込みました。

ステージ発表は健康増進センターで、展示物は有鄰館と朋楽荘を主会場に行うということで、訪れた方には若干のとまどいこそあつたものの、「展示物がまとまって分かりやすくなつた」、「広いステージで日頃の練習成果を発表できてよかつた」など概ね好評だったようです。

初日、健康増進センターでは文化講演会が行われ、講談師の神田紅さんの「歴史に学ぶ女性の生き方」をテーマにした講演に会場は終始笑いがあふれています。

二日目には有鄰館ロビーで

園児たちによる子ども祭りが行われ、父兄、子どもたちが楽しみました。また、健康増進センターでは町民の皆さん、保育園児らによるステージ発表の他、テレビでお馴染みのギンガマンによるショーが行われ、子どもたちに好評でした。

展示物については、朋楽荘で老人クラブ連合会が中心のシルバー創作展、有鄰館で園児・児童、町内各サークルによる作品展が、健康増進センターでは農産物展、保健福祉展などが行われました。

年に一度の町文化の祭典。訪れた皆さんがそれが楽しんでいました。



▲神田紅さんの文化講演会は終始笑いにあふれた



▲健康増進センターには農産物など多数の展示物が展示された

安全運転でたつた一つの大切な命守ろう

平成10年 年末交通安全県民総ぐるみ運動

12月11日（金）から20日（日）

「ゆずりあいあなた
の心のみせどころ」を

十八件増の百十二件と増加傾
向です。

二倍、凍結路で約五・四倍と
いう停止距離実験結果も出て
います。

交通安全県民総ぐるみ
スローガンに、年末の

運動が、十一月十一日
から二十日までの十日

間展開されます。

「飲酒運転の徹底追
放」と「スリップによる
交通事故防止」の二

点が今回の運動の重点
になっています。

飲酒運転をしない決意が
ドライバーの責任

運転者は、飲酒運転の危険
性や違法性の重大さを認識し、

飲酒運転は絶対にしない堅い
決意を新たにすることが大事
です。

家庭では、飲酒運転追放に
ついて話し合うと同時に、車

を運転する来客には絶対にお
酒を勧めない、また地域、職
場では、飲酒の機会において
運転管理を徹底させましょう。

飲酒運転防止は車を運転す
る人の意識によつて解決でき
る交通安全です。

運転者、家庭、地域
の注意が大切

スリップによる交通事故を
防止するために、運転者は路面
面状況の変化を把握し、安全
な速度と車間距離を保ち、早
めの出発を心がけましょう。

家庭では、車は急に止まれ
ないこと、歩行者も転倒しや
すくなることなど、冬の交通
について注意し合いましょう。

また地域、職場では、天候
と路面状況に応じた安全運転
を呼びかけるとともに、冬道
の安全運転の研修を充実させ
ることが大切です。

あなたと大事な人を
守るシートベルト

平成十年十月一日調べの本
町シートベルト着用率は、運
転席で八五・四パーセント、運
助手席で八三・九パーセント
でした。が、本荘署としてはそ
れぞれ八七・八パーセント、
七九・二パーセント、全県で
は八一・四パーセント、六
五・九パーセントという結果
でした。

本町のシートベルト着用率
は全県に比較すると上回るも
の、まだまだ低調ぎみです。

十月末までの県内交通事故
死者者は七十名、うち自動車
乗車中の死者は四十二名、死
者中シートベルトを着用して
いなかつた二十八名のうち十
一名は着用していれば助かる
可能性があつたといいます。

車に乗車し、運転までの数
秒で着用することができるシ
ートベルト。忘れず着用、大
切な命を守りましょう。



飲酒運転が
大幅に増加傾向に

点が今回の運動の重点
になっています。

平成十年十月の県警
酒運転の法令違反、人身
事故が大幅に増加している
という結果がでています。

平成九年十月末の調査では
酒気帯び運転一千七百九十件、
酒酔い運転百六十七件、人身
事故七十四件に対し、平成
十年十月末でそれぞれ三百九
十五件増の二千百八十五件、
四十八件増の二百十五件、三

冬道のスリップは
重大事故に直結する

冬道はスリップによる人身
事故が急増、死亡事故などの
重大事故に直結する可能性が
あります。

乾燥路における停止距離に
は、

特にスリップ事故が発生し
やすい場所は①カーブや交差
点付近②下り坂③橋の上やト
ンネルの出入口付近④濡れた
路面の日陰部分で注意が必要
です。

对比して、庄雪路では約二・
二倍、凍結路で約五・四倍と
いう停止距離実験結果も出て
います。

スリップによる交通事故を
防止するために、運転者は路面
面状況の変化を把握し、安全
な速度と車間距離を保ち、早
めの出発を心がけましょう。

家庭では、車は急に止まれ
うこと、歩行者も転倒しや
すくなることなど、冬の交通
について注意し合いましょう。

また地域、職場では、天候
と路面状況に応じた安全運転
を呼びかけるとともに、冬道
の安全運転の研修を充実させ
ることが大切です。

ドライバーの皆さん！ 私たちの声届きますか？



小・中学生の交通安全への思い

交通安全の祈りをこめて・・・。秋まつり98で行われた小中学校の交通安全作文、標語コンクールにたくさんの作品が寄せられました。どの作品にも子どもたちの交通安全への思いが託されていました。将来、車のドライバーになるであろう子どもたち。現役のドライバーである私たちが今考えなければいけないことは何でしょうか。

入賞した作文から一編と、入賞した標語作品を紹介します。

「交通安全」 東由利中学校二年 高橋奈津美

私は毎日自転車で登下校しています。東由利中学校では安全に関することがとても厳しく、自転車の他に歩行者の規則もあります。私ははつきり言つてめんどうくさいなと思つていました。東由利はあまり自動車が通らないのにヘルメットをかぶらなければいけないのに、他の交通の多い所の生徒はかぶらなくとも良かつたりと、自分たちだけがたくさん規則があるようで嫌でした。

でも今は違います。なぜかというと、東由利中学校でも自転車の事故が増えているからです。

その事故にあつた人たちはヘルメットをかぶつていなかつたら、もしかすると大けがか、または命を落としてしまうかもしれないような事故だつたからです。その他にもニュースなどからも若い人達が事故にあり、命を失つていると聞いたからです。これはもう他人事ではないと思い、私もできるだけ守ろうと思いました。

最近では「ぶれつそ」の駐車場で交通安全運動を行いました。私たちはキー ホルダーを作り、ドライバーの人に呼びかけをしました。やはり歩行者だけが安全に気をつけても、ドライバーの人達にも気をつけてもらわないと困ると思います。

前にニュースでもトラックが保育園児の集団にぶつかつていき、多くの園児や母親が亡くなりました。私はそのニュースを見て、なんとも言えなく悲しく思いました。そしてただかわいそうだという気持ちと、ドライバーに対しての怒りがこみあげてきました。それと同時に、自分にもいつ危険がおとずれるのかわからないことに気づきました。

命を失うのは簡単なことだと思います。今、私たちにできることは、交通安全のルールを守ることだと思います。そしてゆずりあうことと、ゆとりを持つて行動することだと思います。自分の命は自分で守っていきたいと思います。

小学生交通安全標語 入賞作品



| | |
|---------------------------------------|----------------|
| よそ見して 人をまきこむ じこになる (八塩小 三年 佐藤恵美) | （八塩小 四年 畠山淳） |
| しめようよ シートベルトは 命づな (大琴小 五年 菅原綾乃) | （大琴小 五年 菅原綾乃） |
| 運転中 ケイタイ電話は 命とり (八塩小 六年 佐藤恵) | （八塩小 六年 佐藤恵） |
| もう一度 道路に出る前 右左 (八塩小 六年 佐藤恵) | （八塩小 六年 佐藤恵） |
| とび出しほ めいわくいっぱい 事こいいっぱ (大琴小 三年 木島樹) | （大琴小 三年 木島樹） |
| お酒バツ 運転ルール 守つてマル (八塩小 四年 小松智美) | （八塩小 四年 小松智美） |
| ハンドルは ちゃんとぎれば 命の輪 (大琴小 六年 長谷山真央) | （大琴小 六年 長谷山真央） |
| 事故のもと 酒とねむけど 暗い道 (八塩小 六年 古関亮子) | （八塩小 六年 古関亮子） |
| ちよつとまつて きげんはあなたの 前後 (大琴小 三年 浅田麻理奈) | （大琴小 三年 浅田麻理奈） |
| まずベルト 車社会の エチケット (八塩小 五年 八嶋孝宏) | （八塩小 五年 八嶋孝宏） |
| しめましょ もしものために シートベルト (八塩小 六年 村上翔) | （八塩小 六年 村上翔） |

開放的な気分で町づくりのアイディア

ふるさと創造を語る会

それが秋の山の雰囲気を楽しんでいました。



▲八塩登山に汗を流した会員

十月三十日、平成十年度第二回ふるさと創造を語る会が開かれ、阿部幸悦町長はじめ、会員など十一名が八塩山登山を行いました。

この登山は、前回行われた同会で「この会を室内でなく外で開放的な気分で行うのはどうか」という提案を受けて行われたものです。

秋晴れの空とはいませんでしたが、登山した皆さんはどうか」という提案を受けて

三十分の時報を正午に変更しています。町民の視点からの町づくり。同会のこれから活動が期待されます。

わが町の指標

9回

◆第三次産業就業者
比率・六十七位◆(二十四位◆(二十五・四店)

◆参考■
二七・一%)

◆参考■

◆参考■

一位(六郷町・一五店)

一位(秋田市・七
五・八%)

六十九位(大潟村・七・九店)

※平成六年秋田県の商業より

単位人口をベースとして小売業を

営む商店密度をいいます。

一位(大潟村・一〇〇)

十六位◆(八八・九)

◆参考■

その場所で主として料理または、
その他の食料品を飲食させる事業所
の年間販売実績をいいます。

秋田県統計協会発行「わがまち
わがむら百の指標」より抜粋して
紹介しています。

◆小売業年間商品販売額(人口一
人当たり)・五十六位◆(五〇・
四万円)
◆参考■

◆小売業年間商品販売額(人口一
人当たり)・五十六位◆(五〇・
四万円)
◆参考■

◆飲食店年間販売額・六十五位
(三・九九七万円)
◆参考■

◆小売店数(人口千人当たり)・
二十四位◆(二十五・四店)
◆参考■

◆参考■

◆平成六年秋田県の商業より
小売業の年間商品販売額を総人口
で割ったものをいいます。

◆平成六年秋田県の商業より
小売業の年間商品販売額を総人口
で割ったものをいいます。

その場所で主として料理または、
その他の食料品を飲食させる事業所
の年間販売実績をいいます。

秋田県統計協会発行「わがまち
わがむら百の指標」より抜粋して
紹介しています。

会員からのアイディア例紹介

手紙から

急に子供が熱を出し出席できなくなりました。
でもどうしてもお願ひしたいことが二、三あります。
まずは道の駅の玄関です。今は二重の引き戸になっていますが、子供を連れて買い物袋を下げてでは大変です。内側だけでも自動ドアになってくれたらと、いつも思っています。

次に子供の遊び場です。わが家では羽後町のアルカディア公園によく行きます。あそこは、子供を連れていっても危なくないし、お金がかからないし、子供も喜ぶという三拍子そろった場所です。それに平日行つても、小学校の遠足やおじいちゃんやおばあちゃんが孫を連れていり必ずたくさんの人があります。

「東由利にもそんな公園があったらしいな」と思っていたら、宿の河川公園が目に入りました。国道から見える向こう側の芝生も立派ないいと思いませんか。あそこにちょっとハイカラな遊具を置くと必ず子供が見つけます。「お父さん連れていって」とはじまります。そうすればわが家のパターンから行くと、本荘方面からの帰り道、子供と父親は公園に残し、私だけ「ふれっそ」でゆっくり晚ご飯の買い物をして迎えにいって家に帰る、ということもできます。

八塩ダム周辺にもそんなにところが欲しいのですが、母親だけ別行動をとるには遠すぎます。そこで八塩ダムには「こだわりをもった」公園を作つてはどうでしょうか。小さい子供が遊ぶには、すべり台などの遊具は絶対に必要な道具ですが、その他に、例えば高橋宏幸先生にこだわって「キツネの公園」を作つたらどうでしょうか。時報にキツネが出てくる「からくり時計」とか、キツネの銅像などで、童話の一場面がまるで飛び出してきたような配置で作つたら楽しいのでは?。もちろんそのキツネに触れたり、乗ったりできたらもっと楽しいと思います。自分勝手なお願いで申し訳ありませんが、少しでも頭の片隅に残していただけるものがあったら幸いです。まだまだお願ひしたい私事はたくさんありますが、次回にします。

上手に使おう下水道

農業集落排水施設ができたからといって何でも流していくということではありません。

下水道はみんなで使う公共の財産です。下水道を使う一人一人がルールを守つて上手に使うことを心がけましょう。

台所のゴミは流さない

台所から出る野菜くず、残飯あるいは天ぷら油等の廢油は、排水管の詰まりの原因や終末処理場の機能を低下させます。また、ディスポーザー

水洗トイレには溶ける紙を流すと詰まりの原因になります。

洗剤使用は無リン洗剤を

合性洗剤や中性洗剤は終末処理場の機能に支障を引きります。洗剤は無リン性のもの

アルコール等を流さない
揮発性の高い危険物（アルコール、ガソリンなど）を流すと管のなかで爆発したり、管を破損することがあります。

ゴミや土砂を捨てない

マンホールは下水管の点検や修理をするものですので、土砂やゴミを捨てないように。

下水管近くに植樹しない

下水管に樹根が侵入して詰まりや破損の原因になります。

その他お問い合わせは、建設課下水道係（☎六九一二一五）まで

使うようにしましょう。

1. 利用できる汚水

- (1) 台所排水 (2) 風呂場排水 (3) 水洗便所水 (4) 水洗便所手洗水 (5) 洗濯排水【注】粗大物除去、雨水流入防止

2. 使用禁止汚水

- (1) 雨水 [屋根雨水、庭雨水等全て]
- (2) 家畜等の糞尿
- (3) 営農雑排水 [野菜等の洗水]、油脂類、有害な物質の排水



▲表彰された佐藤萬一氏

月十一日、本荘グランドホテルにおいて行われ、受賞者の功績を賛えました。

納税組合の育成に貢献

納税貯蓄組合連合会長表彰

多年にわたって納税貯蓄組合の普及と育成に努め、同会の発展に寄与したとして、佐藤萬一氏（蔵）が本荘市由利地区納税貯蓄組合連合会長から表彰をうけました。

表彰式は十一

年六月二十二日

（注）粗大物除去、雨水流入防止

（2）家畜等の糞尿

（3）営農雑排水 [野菜等の洗水]、油脂類、有害な物質の排水

このように林業情勢下にあって国内木材需要量の大半を占める木材輸入はどうなっているのでしょうか。

山林誌の木材流通レポートによると、今年上半期の木材輸入は、丸太七百七十六万八千²mで前年の三一・五パーセント減、製材品三百九十万五

北洋材丸太も前年より三〇パーセント減少し、南洋材も丸太で前年より三六・七パーセント減、製材品で三七・七パーセント減となるなど、日本市場の極端な悪化が影響しています。

（町林業懇話会会長
佐藤恒悦氏）

東由利・成立

| 区分 | 頭数 | 平均体重 | 平均価格 | Kg当単価 |
|----|----|-------|---------|-------|
| 去勢 | 30 | 304kg | 421,995 | 1,315 |
| 雌 | 20 | 264kg | 286,965 | 1,035 |
| 合計 | 50 | 288kg | 367,983 | 1,203 |

●最高金額去勢 639,450 北国7の8 福谷1 益美
●最高金額雌 391,650 北国7の8 高栄 益美

十一月家畜市場 木材共販市況

| 径級 | 単価(石) | 備考 |
|---------|--------------|----|
| 30cm上 | -円 | |
| 24~28cm | 4,800円 | |
| 14~22cm | 4,650円 | |
| 13cm下 | 2,600円 | |
| 曲り材 | 2,000~2,600円 | |

国有林、民有林とも出荷量が増えているが、需要が少ないため単価は下げ基調。
製品の長引く低迷で今後も価格は下落。売り扱い量も落ちる模様。

町の話題

東由利トピックス



▲表彰をうけたスキークラブの功労者

十一月七日、有鄰館で町スキークラブ設立三十周年及び、町スキー少年団発足十周年記念式典が行われ、関係者など九十余名が出席、技術向上とスキー普及を掲げてきたスキークラブと、競技の底辺拡大と育成指導に全力を注いできた少年団の永きにわたる活動を賛えました。式では両団体に貢献があつた六人が功労者表彰をうけました。その後行われた渡部二郎氏の講演では、氏のスキーを通じた人生論に出席者は聞き入っていました。

スキークラブ設立30周年

歴史と伝統引き継ぐ節目の年



▲除雪計画などが話し合われた除雪連絡会議

除雪会議では、県の除雪担当者など関係者五十余名が参加、平成十年度除雪計画などを話し合い、除雪の基本方針として、初期除雪の完全実施、地域住民との連携などが確認されました。安全のため、きめこまか的な除雪が期待されます。

安全祈願祭では、除雪オペレーターを始め関係職員四十余名が心から冬期間の安全を祈っていました。

除雪会議では、除雪オペレーターを始め関係職員四十余名が心から冬期間の安全を祈っていました。

冬将軍到来

除雪安全誓う

除雪安全祈願祭・連絡会議

十一月十六日、役場車庫で除雪安全祈願祭が、有鄰館で除雪連絡会議がそれぞれ開かれました。

安全祈願祭では、除雪オペレーターを始め関係職員四十余名が心から冬期間の安全を祈っています。

県植樹祭にむけ順調な進捗



▲25人が春まで共同生活

集団生活通じ新たな経験

寄宿舎入舎式

十一月四日、東由利中学校冬期寄宿舎入舎式が行われました。今年の入舎生徒は全部で二十五人。佐々木博文講師を中心に来春まで八十日あまりの共同生活をおくります。入舎生代表鈴木達也君の誓いの言葉の後、小川校長、小笠原教育長がそれぞれあいさつ。「集団生活を通じ、家で体験できないことを経験してほしい」と入舎生徒を激励しました。小中学生に集団生活を体験させることが必要であるという動きがある中、寄宿舎の役割が期待されます。



▲植樹祭の予定地で開かれた緑化推進委員会

来年五月本町で開催される第五十回秋田県植樹祭まであと半年足らず。「育てよう地球の命と未来の夢を」をテーマに町が中心となつた式典準備が着々と進められています。十一月一日には町緑化推進委員会が植樹祭開催地で行われ、関係者など二十余名が式典会場、オートキヤンプ場等視察、今後の推進計画等を確認しました。七月には老方にPR看板が設置された他、現在八塩地区整備が順調に進捗中。全県植樹祭は町一丸となり成功させたいものです。

町緑化推進委員会開催

来年五月本町で開催される第五十回秋田県植樹祭まであと半年足らず。「育てよう地球の命と未来の夢を」をテーマに町が中心となつた式典準備が着々と進められています。

町のあっち、こっちから・



▲保護者のみなさんのもちつき

ヨイシヨの声体育館に響く

各小学校で収穫感謝祭

十月十七日に八塩小、十月三十一日に高瀬小で行われた収穫感謝祭。

十一月七日には大琴小でも行われ、同小児童をはじめ、保護者、地域住民の皆さんが体育館で収穫感謝祭を楽しみました。

午前中は、児童と保護者によるもちつきが行われ、一つごとに児童たちのヨイシヨヨイシヨの明るい声が体育館に響いていました。午後からの全校発表では各学年が創意工夫した出し物を発表、訪れた方々は笑顔で観覧していました。



▲大いに楽しんだフランス鴨ワインパーティー

十一月十四日、フランス鴨生産組合が主催する「フランス鴨ワインパーティー」が有鄰館で行われ、二百余名が鴨料理、ワインなど地域特產品の味を楽しみました。このパーティーは本町以外にも大森、大内、羽後町などの特產品も楽しめるとあって毎年好評を博しています。

フルートとピアノによるクラシック音楽、阿部幸悦町長、大森、羽後両町長による大抽選会などの内容に参加者たちは皆が満足。それぞれが有意義に秋の夜長を過ごしました。

それぞれの特產品に舌鼓

フランス鴨パーティー

十一月十四日、フランス鴨生産組合が主催する「フランス鴨ワインパーティー」が有鄰館で行われ、二百余名が鴨料理、ワインなど地域特產品の味を楽しみました。このパーティーは本町以外にも大森、大内、羽後町などの特產品も楽しめるとあって毎年好評を博しています。

フルートとピアノによるクラシック音楽、阿部幸悦町長、大森、羽後両町長による大抽選会などの内容に参加者たちは皆が満足。それぞれが有意義に秋の夜長を過ごしました。



▲動きあふれる猿倉人形

土着文化はその土地で輝く

県民カレッジ・猿倉人形

十一月九日、有鄰館で県民カレッジ子吉川流域公開講座が行われ、二百余名が参加、伝統芸能の継承方法について地域の役割を考えました。

講座では土地の生活から生まれた固有の土着文化として、鳥海町伝統芸能の一つである猿倉人形芝居が紹介、小人数で演じているとは思えない動きと、豊かな物語に盛んな歓声と拍手がおこられました。その後、鳥海町松田訓氏の講演では、「土着の文化はその土地でこそ輝く」と伝統



▲町特産品を使用した「湯樂里」会席料理

「湯樂里」が十一月七日で三周年を迎え、日頃の感謝の気持ちを形にと、十一月十一日から十四日までの四日間、誕生三周年祭が開かれました。昨年、二周年祭での会席料理が好評だったことから今年も会席料理が抽選でプレゼントされました。

今回の招待者は全部で二十五組、百人。新しく食事処「やしお」の料理長を務められている山本省三氏の自信作「湯樂里鍋」を中心に、町特産品を使用した料理の数々に招待者は笑顔で舌鼓を打っていました。

湯樂里から笑顔の贈り物

湯樂里誕生三周年祭

東由利文化クラブ

虫歯
なんてない
も～ん。

2歳児健診

() 内は保護者

佐藤正広くん
下通(博之さん)

遠藤楓ちゃん
家ノ下(卓哉さん)



小松咲稀ちゃん
家ノ下(仁さん)



高橋聖人くん
久保(敬子さん)



下小路(善健さん)
下小路(ゆうすけ)



太田奈々美ちゃん
藏新田(光弘さん)
藏新田(なみみ)



佐々木主馬くん
新町(一徳さん)



畠山愛美ちゃん
館合新田(次郎さん)
館合新田(あみ)



優良校として八塩小表彰
「いつまでもみがいてかんでじようぶな歯」をテーマに、十一月五日、秋田県総合保健センターにおいて、第四回県民いい歯の集いが開催されました。これは各種講演、体験発表などをすることによって歯の健康を保持、歯科保健水準の向上を目的とした集い。この集いの席上、八塩小学校がよい歯の学校優良校として表彰をうけました。

平成10年よい歯の学校表彰



▲表彰をうけた八塩小児童の皆さん

優良校として八塩小表彰
「いつまでもみがいてかんでじようぶな歯」をテーマに、十一月五日、秋田県総合保健センターにおいて、第四回県民いい歯の集いが開催されました。これは各種講演、体験発表などをすることによって歯の健康を保持、歯科保健水準の向上を目的とした集い。この集いの席上、八塩小学校がよい歯の学校優良校として表彰をうけました。

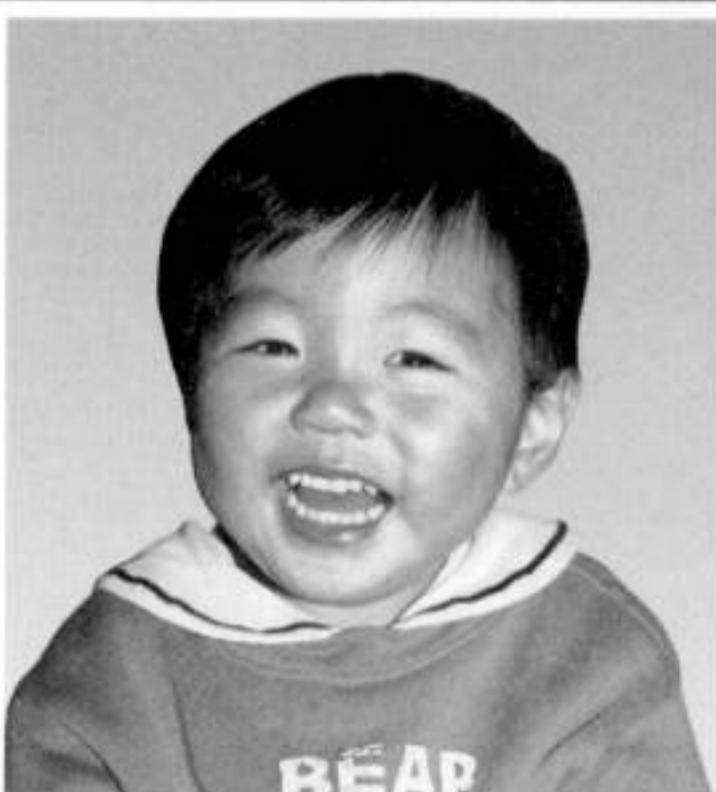
新着本紹介



アドフルをさがせ!

けんた
仙道健太くん(2歳)
お父さん:孝一さん
お母さん:悦子さん
【新沢】

文: 悅子さん



仙道健太くん(2歳)
お父さん:孝一さん
お母さん:悦子さん
【新沢】
文: 悅子さん

健太は元気で活発な子供。食欲もバツチリ。ニコッとした笑顔、目元がチャームポイントかな?。最近は寒くて出かけることが少ないのですが、朝、晚にお父さんと車で散歩するのが楽しみです。好きな遊びはまず、外で遊ぶこと。ユンボやブルドーザーなどのおもちゃで遊ぶことが好きなので、外を歩いてもこういう機械は見逃さずかならず騒ぎます。これは父親ゆずりなのかなと、ふと思っていますね。

日中は祖父母に育ててもらつてるので、けつこうのんびりや。昔話や歌など私の知らないことを教えてくれてありがとうございます。将来は明るく元気に育つてくれたらいいなと思います。

鰯鍋をかごみ戦場武勇談 山崎 良子
高々と薪積みし夜の雪起し 時雨山 吉川 葉子
水底に落葉沈めて池古るる 藏新田 小野 良子
箱詰めの文字大きく年用意 蔵新田 小野 良子
山風の山に高ぶる冬隣 人住まぬ隣となりて冬に入る 舟打場 阿部 澄子
落日の軒端にある柿のれん 高戸屋 小松 敏雄
朝靄の市に葉牡丹抱へ出す 横小路 小松 丈介
動かざる霧の一隅舟だまり 秋田市 嶋峨 義之
山崎洋子▼酪農家族/立松和平▼
失われた世界/森詠▼生存者上・
平原拓也▼秋田ことば/三木藤佑
▼わたしの人生空つ殻/真田キヨ
子▼アーサー王物語/阿刀田高▼
吉兆味ばなし/湯本貞一▼未来は
いま決まる/堺屋太一▼蜻蛉の
川/宮越郷平▼女医上・下/シド
ニイ・シェルダン▼宣戦布告/麻
生幾▼小さいことにくよくよする
な/リチャード・カールソン

鈴の緒のしめりを握る神の留守 横渡 高橋 秀月
立てかけし竿そのままに柿落葉 藏新田 小笠原トミ
辻地蔵冬のかまえの深帽子 上里 小野石蕗子
ちぎり絵の月まだかなり夜の時雨 下小路 小松 メサ
霜月や杉皓々と神楽殿 湯出野 佐藤 正義
毛糸編む子の手に母の手を重ね 五海保 嶽石 レイ
不自由な片手も借りて冬囲い 藏新田 小笠原亮子
燭細くともす地蔵や宗鑑忌 横小路 宮野源一郎
残菊を手折れば匂ふ佛の間 小倉 遠藤トミ子
冬構え終えて産土神鎮まれり 久保 高橋 典三
団う手のしばしたためらふ花ハツ手 船木 大庭翠石衛門

X-GUN、松本ハウスが本荘に

本荘市由利郡公民館連合会が中心になり、由利郡内若手有志によつて計画されていたイベントが、十二月十二日（土）午後四時から本荘市文化会館で行われます。

ハイパートークライブとして実施されるこのイベントでは、若手コントグループとして人気急上昇中のX-GUN、松本ハウスの両グループを迎えてライブコントを楽しみます。

前売りチケットは二千五百円（当日三千円）で公民館で販売しています。

お問い合わせは公民館まで（公六九一一三一一）

スクールララボ

二十二キロを走つて

下郷分校二年生
遠藤 翼くん



十一月十三日、僕にとっては二回目の参加になる強歩大会が行われた。大会の日は、前日まで降り続いた雨もやみ、とてもいい天気になつた。けれども、朝から全くやる気が出ず、好天を恨めしく思

いながら学校にむかつた。去年の強歩大会ではずっと歩いていたので、最初は今年もそれでいこうと思っていた。だいたい普通の人間が二十二キロも走つたらどうにかなつてしまふだろうと思つた。だから僕は、どうにかならなかつた。だから僕は、どうにかならなかつた。だから僕は、どうにかならなかつた。だから僕は、どうにかならなかつた。

けれどもその日はどういう訳か調子がよく、結果一位になつてしまつた。たぶんみんなの頑張りが足りなかつたので、運良く一位になれたのだと思う。

走つている時も辛いと感じるところがあつたが、走り終えた後の方が大変だった。直後は、足が痛くてまともに歩くことができなかつた。その次の日はもつとひどくて、自分の力で立ち上ることさえできなかつた。

一位になれたのは幸いだつたが、もう一度と走りたくないといつた。それが正直な今の思いだ。



むかしむかし

川崎あんばん

十八

むかしむかし、滝山で炭焼きが盛んだったころのこと。一人ほつちで

じいさんは、ときどき里におりてきて、背負つてきた炭をお酒にかけ、酔いがまわつてくると、ところがまわす道端に座り込んで一すっぽんすっぽん、すっぽんばん、川崎あんばんすっぽんばん・・・唄のつもりになつたじいさんを、村のみんなは、

山の炭焼き小屋に帰り、せつせと働くじいさんを見る炭焼き仲間が

のわら苞をおろすあんばんじいさんを見て山の仲間達はびつくりしまし

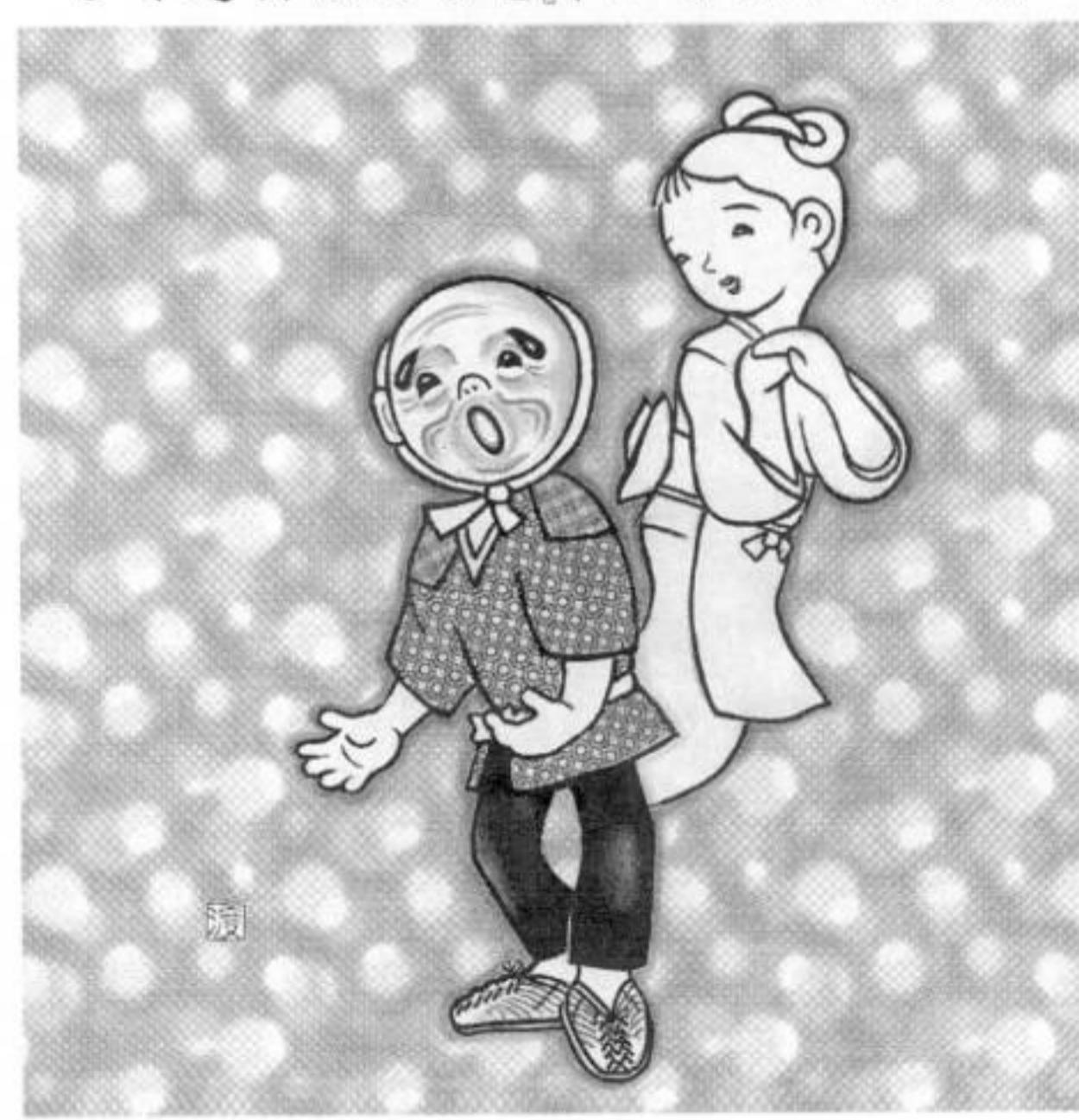
から助かるよお・・・とにかくしてゐるのでした。「変だな、じいさんたしか一人ほつちなのに・・・」首をかしげてゐる山の仲間です。

そんなことがあつてから、山の仲間達の間で妙な噂をするようになりました。でも、誰れ一人じいさんの娘を見た人はいないのです。

ある日のこと、仲間と一緒に里におりて炭を売り、そのお金で魚や油揚げなど買いこんだ、いっぱいきげんの川崎あんばんでした。よたよたした足どりで暗い夜道を滝山に帰る途中のこと。「危ないよ、じいさん」仲間が注意すると「心配ないよ。娘がほれ、迎えに来てるよ・・・」。

あれつじいさんの前を見ると、不思議なことにボオーと灯りのようなものが見えるのでした。そしてじいさんは「・・・なあ、長坂に嫁コにい

（文と絵 石渡力造氏）



きつと、いたずら狐の仕業を淋しい暮しのじいさんは、ほんとの娘に思つてゐるのだろうと話してい



草の名はこの名が苦いのであります。乳液を舐めると白い乳液が出ます。この名がありであります。

日本全国、どこにでも見られる多年草で、茎は三十センチくらいで細く、折ると白い乳液ができます。葉は細長く形が不整で、いろいろな形に切れ込み刺状に見えますが軟質です。五月から七月ごろ、茎から花枝を出して集散花序（主軸の先端に、まず一個の花をつけ、ついでその下のほうに一個から数個の側軸を出し花をつけ、更に側軸を出して上方から下

東由利 郷土の野草

NO.166

ニガナ
(キク科)

文・写真 小松忠正氏

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---------------|--------------|--------------|----------------|--------------|-------------|----------------|--------------|---------------|---------------|---------------|-------------|-----------|----------|
| 11/19 小松 チヨさん | 11/16 小松アケヨさん | 11/8 遠藤 正男さん | 11/1 小野太一郎さん | 10/23 大庭五左エ門さん | 10/2 小野 リツさん | 10/23 小野 橋陵 | 10/23 小野 賀奈子さん | 10/28 佐々木 南帆 | 10/22 小松 音仁さん | 10/16 小松 千尋さん | 10/16 富山 幸子さん | 10/20 桂儀 淳子 | 10/20 英恵子 | 10/16 順繁 |
| (86) 勘 賢 | (83) 三母・母・母 | (63) 高野・母・母 | (86) 清 昭・母・母 | (90) 敏 父・母・母 | (85) 泡ノ瀬 | (86) 上寺 | (90) 本荘市 | (85) 通田 | (86) 下高 | (86) 村 | (86) 上通 | (86) 下通 | (86) 畑 | (86) 高通 |
| 前高町 | 木船町 | 宿 | 新宿 | 船木町 | 通 | 通 | 通 | 通 | 通 | 通 | 通 | 通 | 通 | 通 |

ご結婚おめでとう

ごめい福をお祈りいたします



▲町功労、まちづくり奨励賞授賞の皆さん

十一月五日、有鄰館で町功労者表彰式が行われ、関係者など百余名が出席しました。阿部幸悦町長は功労者、まちづくり奨励賞授賞者の経歴、功績などをふれた後、「二十一世紀にむけた明るく元気の出る町づくりのため今後ともご指導ご支援を願いたい」と式辞、阿部剛議会議長が「永年にわたるご尽力に感謝するとともに新しい時代に対応できる町づくりのために後輩の指導に力を」とあいさつしました。授賞者一同感動を新たに町発展のため今後とも尽力したい」と授

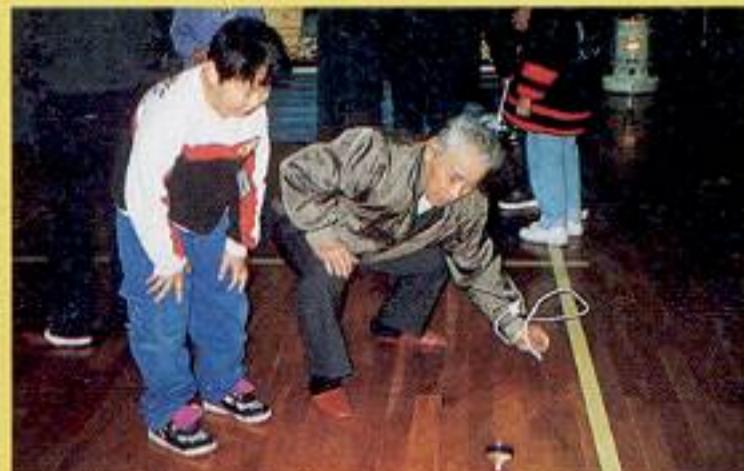
感動新たに町づくりを

町功労者表彰式

社会福祉協議会に小野清幸さん（宿）、長谷山憲一さん（地元）、大庭敏昭さん（船木）、菅原賢治さん（八日町）、八嶋与四三さん（家ノ下）、藤井蘭子さん（本荘市）からご芳志が、また広報送付謝礼として、在京宿小会から金一封が届けられました。ありがとうございました。

まごころ

今月の写真スナップ



11月21日祖父母学級が高瀬小学校で行われ、子供たちは昔からの遊びとわら細工を体験。

12月▶データ東由利

<10/1~31>

住民基本台帳人口 ()は前月比

- 男.....2,545人 (△4)
- 女.....2,698人 (△1)
- 計.....5,243人 (△5)
- 世帯数.....1,394戸 (2)

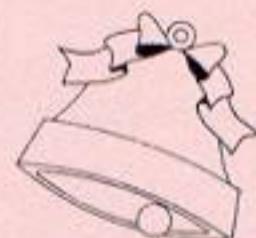
()は1月からの累計

- ・出生 7人(22)・死亡 5人(47)
- ・転入 7人(60)・転出 14人(139)

- 火災出動.....1件(1)
- 救急出動.....13件(124)
- 交通事故.....0件(4)
 - ・死亡.....0人(0)
 - ・傷者.....0人(7)
- 飲酒運転.....0人(2)
- 酒気帯び.....1人(1)

カレンダー 12月の行事予定

- 1 家庭バーボン大会(～1/13)
- 4 高橋宏幸賞審査会
- 9 家畜市場
- 15 第十回議会定例会
- 20 高橋宏幸賞
童話秋田県コンクール表彰式
- 23 天皇誕生日
- 25 小・中学校終業式
- 25 農業委員会
- 下旬 大平スキー場開き



ほつとひといき!

11月の豪雪には驚きました。明治に気象庁の観測が開始されてこの時期にこれだけの雪がまとまって降ったのは初めてということ。本荘では1メートル近くの雪が積もり、全国ニュースになりました。国道7号が凍結し大渋滞が続いたりと色々な天候でした。

そんな突然の雪にかかわらず、東由利町および国道107号の除雪はしっかりしていましたように思います。冬はこれからが本番。除雪オペレーターの皆さん、体に気をつけてがんばって下さい。(さ)